4）区間④

土地利用の基本方針

人が集いスポーツに親しむ緑の創出

草津市のスポーツ拠点として隣接する野村運動公園や未利用地*と一体的な土地利用を図り、人が集いスポーツに親しむ緑の空間を創出します。その中で、利用ニーズ*をふまえた魅力あるスポーツ空間づくり、身近に憩いふれあえ、うるおいとやすらぎを感じる空間づくり、桜などの歴史性を活かしたにぎわいある空間づくりを目指します。

空間整備イメージ

＜スポーツ広場エリア＞

野村運動公園や隣接する未利用地*と一体的な土地利用を図り、駐車場や体育館など必要な機能を整備します。

図 4-30 体育館･駐車場のイメージ

＜身近な広場エリア＞

散歩やジョギングが楽しめる散策路や、軽運動や休息ができる広場など、市民が身近に憩いふれあえ、うるおいとやすらぎを感じる広場を整備します。

図 4-31 散策路のイメージ

図 4-32 小運動･休息広場のイメージ

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

＜にぎわい観賞広場エリア＞

桜や紅葉など四季折々の花木を配植した広場を主体として、オープンカフェ*などを併設したにぎわいのある花の観賞広場を整備します。

図 4-33 花の観賞広場のイメージ

図 4-34 にぎわいのある店舗のイメージ

＜民間活用検討エリア＞

中心市街地としての生活利便性の高さを活かして、隣接する市営住宅跡地などと一体的に住機能を主体とした民間活用による土地利用を検討します。新しく生まれる街並みでは、草津川廃川敷地の緑などと調和した美しい景観を創出するとともに、環境面や災害面などに十分配慮した安心安全をキーワードとした新しい住空間モデルの創造を目指します。

図 4-35 民間活用のイメージ
（ゆとりやうるおいの感じられるガーデンシティ）

図 4-36 民間活用のイメージ
（ゆとりやうるおいの感じられるガーデンシティ）

防災機能

広域避難所*である野村運動公園や草津高等学校と連携を図り、防災対策を進めます。

民間活力の導入

隣接する市営住宅の跡地との一体的な土地利用により、環境や防災に配慮した新しい住空間モデルの創造や、オープンカフェなどの店舗の配置によるにぎわいの創出でまちの魅力を高めるため、民間活力の導入を検討します。

魅力づくり

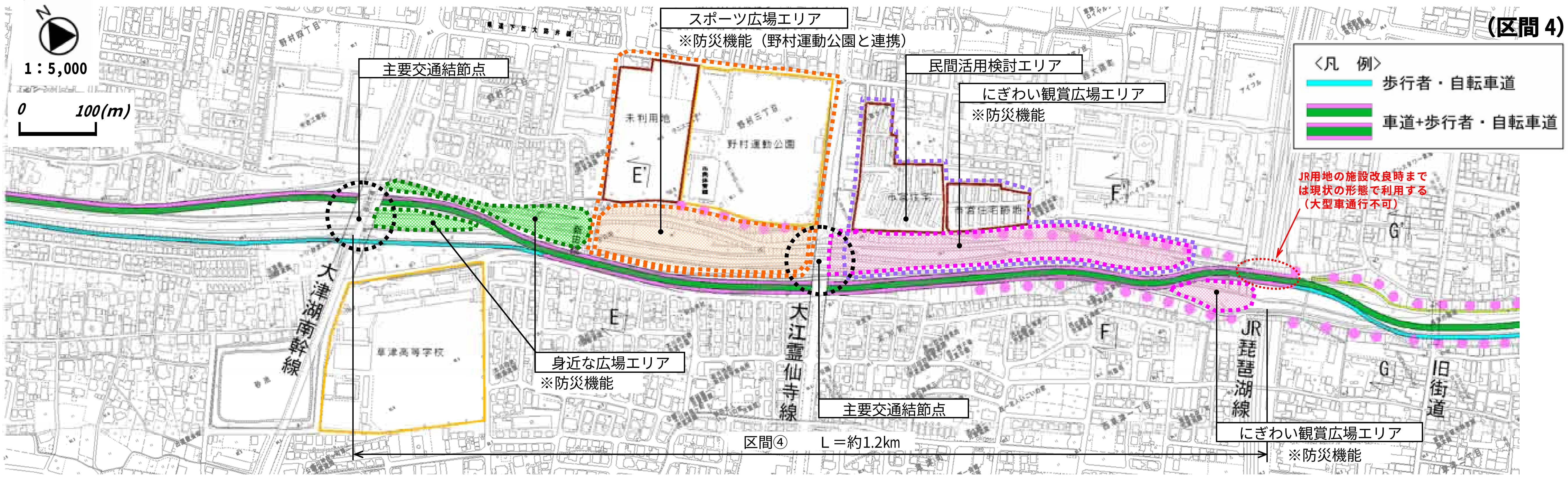
市内のスポーツ拠点として常ににぎやかで活気のある空間を生み出します。市民の利用ニーズ*に即したスポーツ施設を導入することで魅力の向上につながることが期待されます。

堤防整備の方向性

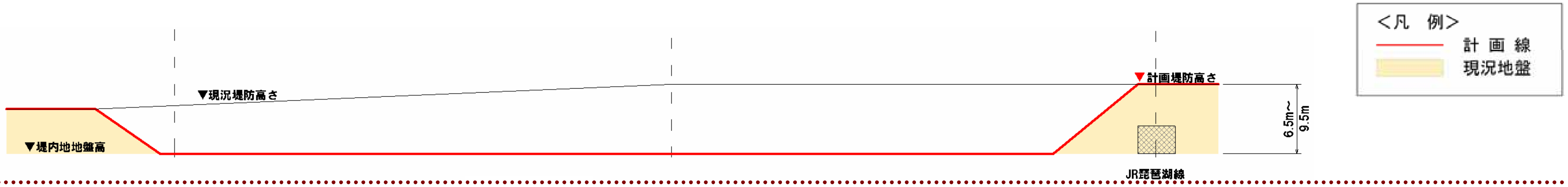
区間④の堤防について、JR 琵琶湖線付近を除く区間は物理的には除去が可能な区間となっています。沿川の野村運動公園や未利用地*との一体的な土地利用を図るために、堤防を除去し平地化することを基本とします。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

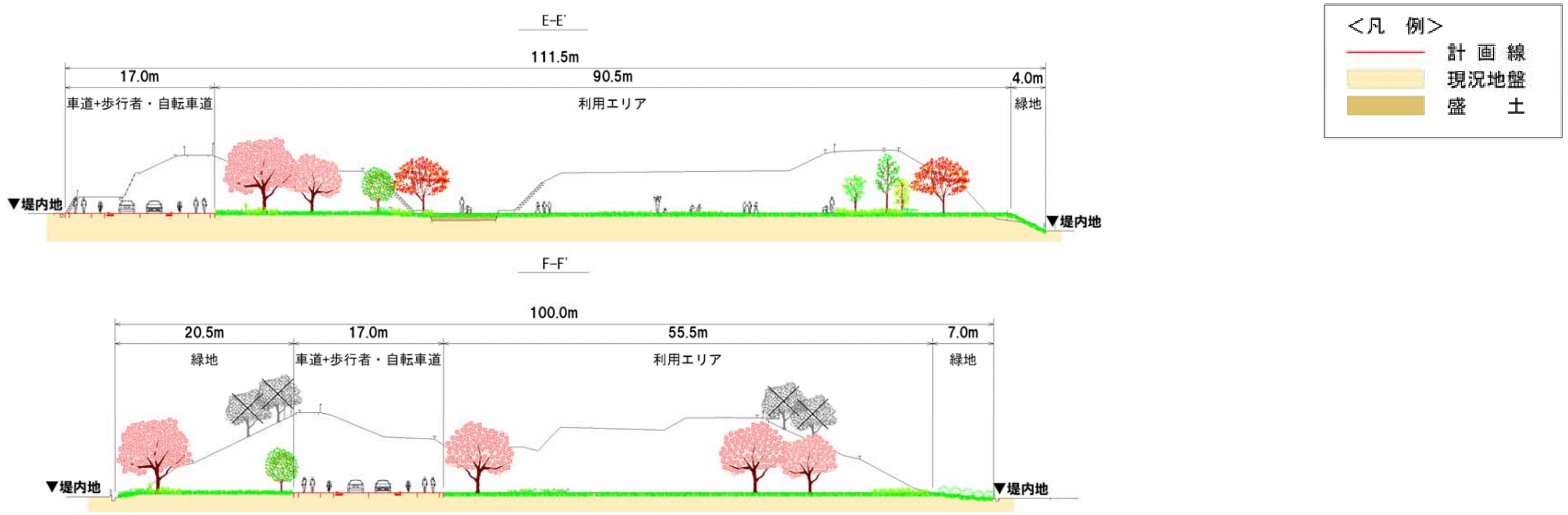
空間配置計画



縦断模式図



標準断面図



5）区間⑤

土地利用の基本方針

人と出会い歴史を伝えるにぎわいと緑の創出

区間⑤では、草津市の貴重な歴史的資源や旧草津川の特長である眺望や優れた景観を残していくため、天井川*の堤体を保全します。また、宿場まつりなどを通じて草津の歴史や文化を後世に伝えていくため、人と出会い、歴史を伝えるためのにぎわいと緑の空間を創出します。そのために、天井川の歴史や街道文化を感じ伝える空間づくりや天井川としての地形を活かしたにぎわいある空間づくり、回遊性を高める駐車場の整備を進めます。

空間整備イメージ

＜歴史広場エリア＞

天井川の堤体保全にあわせて、宿場まつりのイベントなどに利用できる多目的広場を整備します。また、天井川の歴史や街道の文化を学び伝える展示施設を整備します。

図 4-37　多目的広場のイメージ

図 4-38　歴史紹介モニュメントのイメージ

図 4-39　歴史案内板のイメージ

＜にぎわい観賞広場エリア＞

桜や紅葉など四季折々の花木を配置した広場を中心として、オープンカフェ*などを併設したにぎわいのある花の観賞広場を整備します。

区間④とは異なり、街道の古い街並みを意識した形態意匠や色彩で統一するなどこだわりのある空間整備を行います。

図 4-40　花の観賞広場のイメージ

**図 4-41　街道の古い街並みを意識した
こだわりのある空間整備のイメージ**

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

<観光駐車場エリア>

　中心市街地への流入車両の抑制と草津川跡地や市内中心部の回遊性を高めることを目的として、観光大型バスも駐車可能な観光用駐車場を整備します。また、レンタサイクルやバス停なども併設することで、さらなる回遊性の向上を図ります。

図 4-42 レンタサイクル（シェアリング）*のイメージ

図 4-43 観光駐車場のイメージ

防災機能

　多目的広場や駐車場などを災害時の退避場所や一時集合場所として活用するとともに、隣接する草津第二小学校（広域避難所）との連携を図り、防災対策を進めます。

民間活力の導入

　オープンカフェ*などの店舗の配置によるにぎわいの創出でまちの魅力を高めるため、民間活力の導入を検討します。

魅力づくり

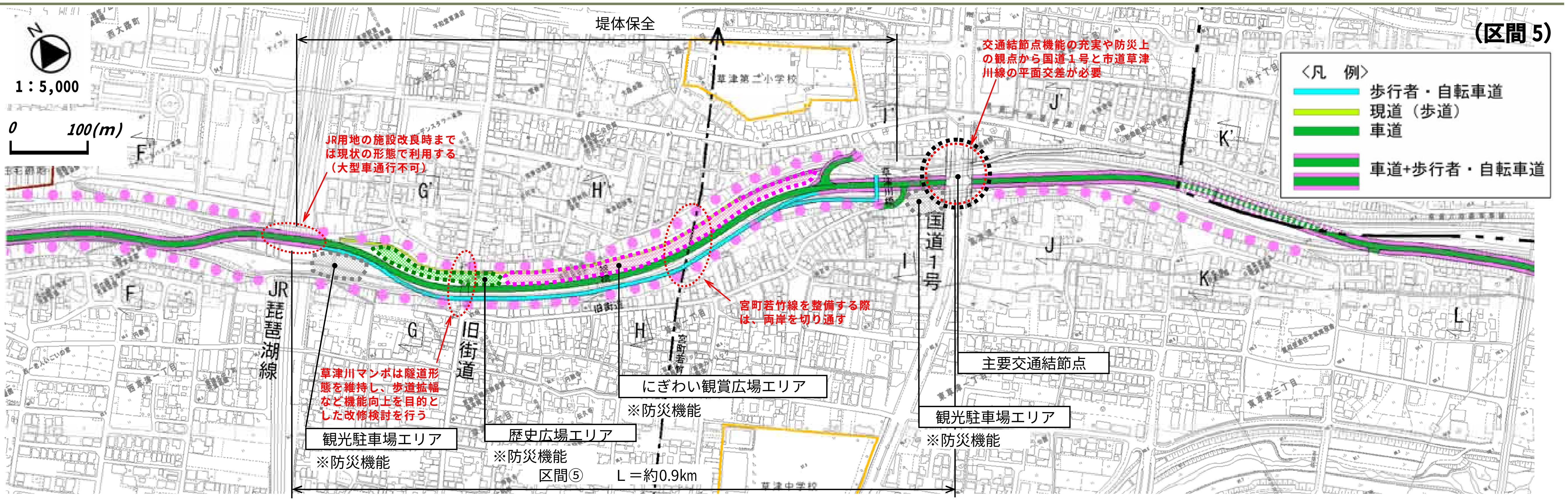
　天井川の歴史や街道の文化を意識しこだわりのある景観づくりを行うことで、新しい魅力の創出を目指します。また、旧街道や草津駅前の商店街と連携したイベントを催すなど、中心市街地としての回遊性を高めるソフト施策を導入します。

堤防整備の方向性

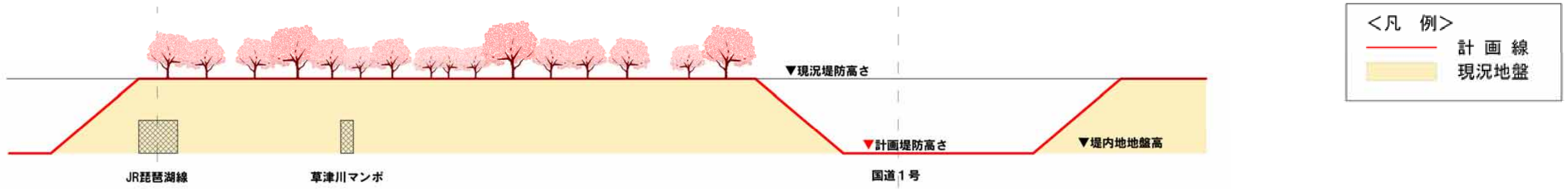
　区間⑤は JR 琵琶湖線～草津川橋の間で堤体の保全を行います。ただし、左岸*堤防については歩行者・自転車道が必要有効幅員を満たしていないため、拡幅整備が必要と考えられます。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

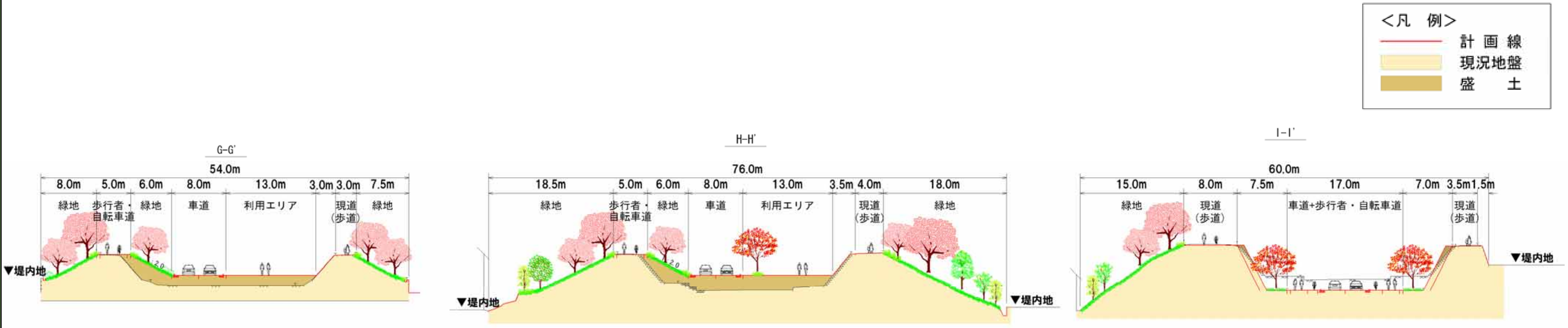
空間配置計画



縦断模式図



標準断面図



6）区間⑥

土地利用の基本方針

連携と協働による緑の創出

この区間には廃川敷地の中心部に栗東市との行政区域界が通っていることから、一体的な土地利用を図っていくためには栗東市との調整が必要不可欠となります。草津川跡地としてより良い土地利用が図れるよう、関係機関と連携し協働で緑を創出します。特に、天井川*の歴史や街道文化を感じ伝える空間づくりや桜などの歴史性を活かしたにぎわいある空間づくり、回遊性を高める駐車場の整備を行います。

空間整備イメージ

＜歴史広場エリア＞

旧街道の再整備とあわせて街道文化を伝えるシンボル広場を整備します。

図 4-44 旧街道など街路の環境整備のイメージ

＜観賞広場エリア＞

桜や紅葉など四季折々の花木を配植した広場を主体とした花の観賞広場を整備します。

図 4-45 花の観賞広場のイメージ

図 4-46 小運動･休息広場のイメージ

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

＜観光駐車場エリア＞

中心市街地への流入車両の抑制と草津川廃川敷地や市内中心部の回遊性を高めるため、観光用駐車場を整備します。さらに回遊性を高めるため、レンタサイクルやバス停などの併設も進めます。

図 4-47 レンタサイクル（シェアリング）*のイメージ

図 4-48 観光駐車場のイメージ

<u>防災機能</u>

広場や駐車場などを災害時の退避場所や一時集合場所として活用します。

<u>魅力づくり</u>

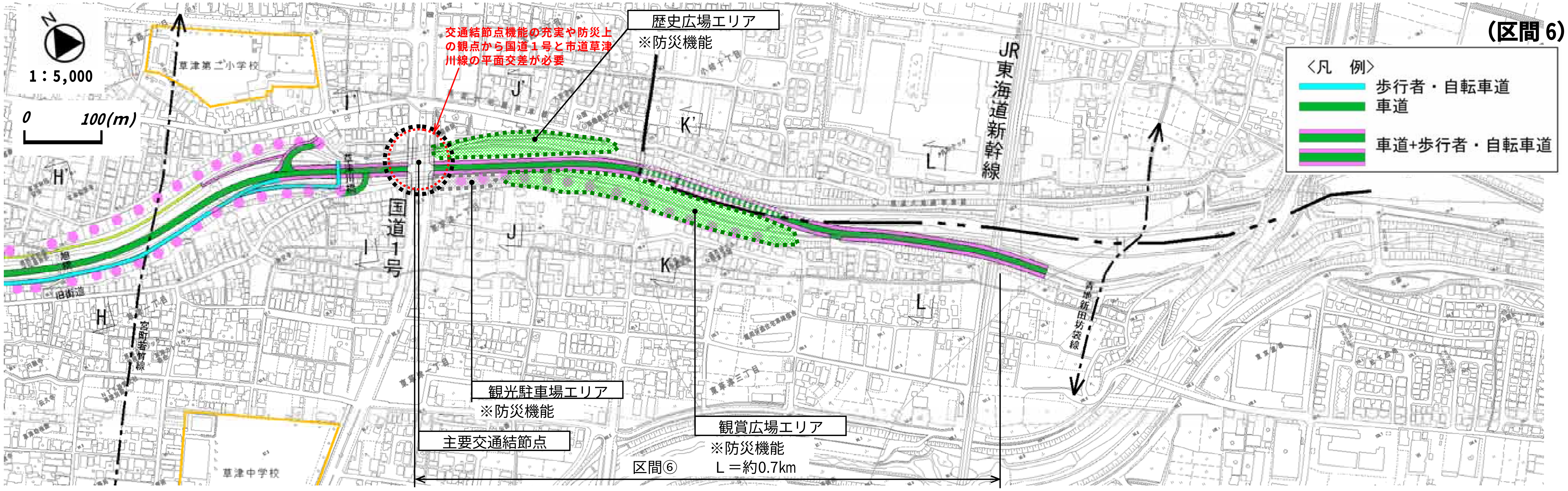
区間⑤と一体的に、天井川の歴史や街道の文化を意識しこだわりのある景観づくりを行い、新しい魅力の創出を図ります。

堤防整備の方向性

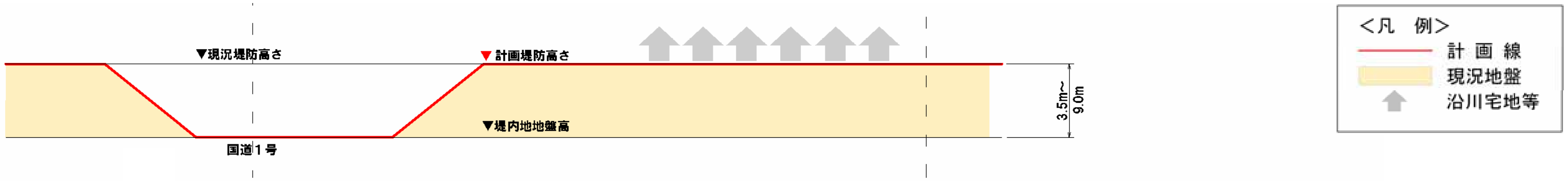
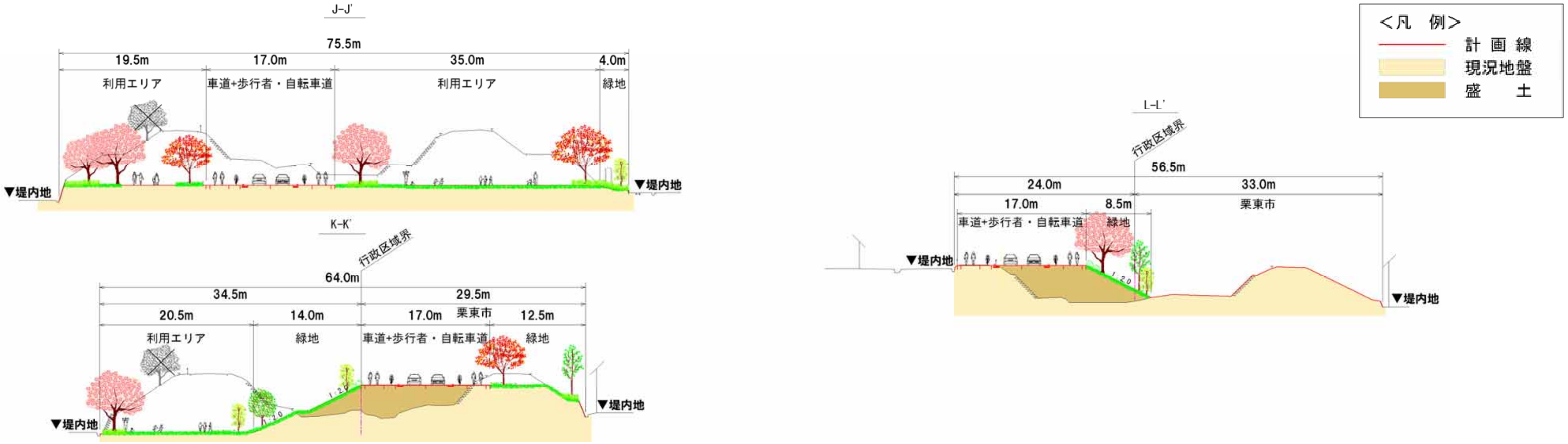
区間⑥は、栗東市との行政区域界を含む区間となっており、栗東市内の右岸*堤防については、現状形態を維持することを基本とします。また、左岸*堤防は堤防道路を進入路として利用されているため左岸堤防と同様に現状形態を維持することを基本とします。

注：文中の＊は「参考資料　用語解説」で用語の解説を記載しています。

空間配置計画



縦断模式図



標準断面図